

ひょうご県民連合 管外調査日程

鹿児島県：令和元年5月20日（月）～21日（火）

月日	着	発	調査施設名	備考
5/20 (月)		9:35	(神戸空港)	スカイマーク131便
	10:45	11:00	(鹿児島空港)	
			(移動・昼食)	空港～鹿児島市内：約45分
	13:15	15:00	鹿児島県庁 [鹿児島和牛、黒豚の輸出促進] [スマート農業の推進]	鹿児島市鴨池新町10-1 099-286-5043 (政務調査課 [REDACTED])
			(移動)	鹿児島市内～指宿 ：約1.5時間
	16:30	17:30	メディポリス国際陽子線治療センター [リゾート滞在型陽子線がん治療]	指宿市東方4423番地 0993-23-5188 (担当：[REDACTED])
	18:00		(移動)	
			(指宿ロイヤルホテル) ※陽子線治療センターの施設視察が、患者のプライバシーの関係で17時以降でないと対応できなかったことから、同市内で宿泊。	指宿市十二町4232-1 0993-23-2211
5/21 (火)		8:30		
			(移動)	指宿～鹿児島市内 ：約1.5時間
	10:00	11:30	そらのまち保育園 [企業主導型保育園]	鹿児島市東千石町17-1 099-225-7107 (白水園長)
			(移動・昼食)	
	13:00	14:00	マルヤガーデンズ [コミュニティギャラリーを設置する 再生商業施設]	鹿児島市東呉服町6-5 099-813-8108 [REDACTED]
			(移動)	鹿児島市内～いちき串木野市： 約1時間
	15:30	16:30	濱田酒造株式会社 [焼酎の需要拡大に向けた取組]	いちき串木野市湊町4-1 0996-36-3131 (担当：[REDACTED])
			(移動・夕食)	いちき串木野市～鹿児島空港： 約1時間15分
		20:25	(鹿児島空港)	スカイマーク132便
	21:30	(神戸空港)		

令和元年度 ひょうご県民連合管外調査先 概要

鹿児島：令和元年5月20日（月）～21日（火）

調査日	調査先・所在地・調査テーマ	調査先概要・調査目的
5/20 （月）	<p>1 鹿児島県議会 （鹿児島市）</p> <p>○鹿児島和牛、かごしま黒豚の輸出促進 ○スマート農業の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鹿児島県では、平成23年4月に食肉の輸出に取り組んでいる事業者等を中心に食肉輸出促進協議会を設立し、香港、タイ、シンガポール等で開催される食品見本市でのPR・商談を実施するなど、食肉の輸出促進に取り組んでいる。 認知度向上や販売促進の取組について伺い、兵庫県における輸出促進の参考とする。 ・ 鹿児島県の農業産出額は全国2位（平成29年）であり、農業は地域経済を支える基幹的な産業と位置づけられている。 そのような中、農業従事者の減少や高齢化等を背景に超省力化・高品質生産を実現する「スマート農業」が期待されていることから、今年3月に「鹿児島県スマート農業推進方針」を策定している。 策定経緯や今後の取組方針等を伺い、兵庫県における農業振興の参考とする。
5/20 （月）	<p>2 メディポリス国際陽子線治療センター （指宿市）</p> <p>○リゾート滞在型陽子線がん治療</p>	<p>日本有数の温泉地「鹿児島県指宿市」において2011年1月、九州初の粒子線治療専門施設として陽子線によるがん治療を開始。</p> <p>「病院らしくない病院」、「患者さんらしくない患者さんがいる病院」を目指し、リゾート滞在型陽子線がん治療という新しい治療スタイルを提唱している。</p> <p>患者のQOLの向上に向けた取組等を伺い、兵庫県における陽子線がん治療の参考とする。</p>
5/21 （火）	<p>3 そらのまち保育園 （鹿児島市）</p> <p>○企業主導型保育園</p>	<p>働き方にあわせた柔軟な保育サービスを提供するため、企業サポーター登録をした企業に勤めている方を対象とした「社保コース」と地域住民の方を対象とした「地域保育コース」の2つの保育コースを提供している。</p> <p>また、保育園が入る施設は総菜店や地域との交流スペースを設けるなど、幅広い世代の方が集えるような設計となっている。</p> <p>保育園の取組や考え方等を伺い、兵庫県における待機児童対策の参考とする。</p>

調査日	調査先・所在地・調査テーマ	調査先概要・調査目的
5/21 (火)	<p>4 マルヤガーデンズ (鹿児島市)</p> <p>○コミュニティギャラリーを設置する再生商業施設</p>	<p>鹿児島三越の百貨店跡地の再生商業施設。様々な店舗が入居していることに加え、各フロアにコミュニティギャラリーを設置し、地域のNPO法人や民間団体が活動できる場所を提供している。</p> <p>地域の人々が集まり、地域のコミュニティによって運営されるギャラリースペースをつくることで、ひととものまちをつなげる新しい施設のあり方について、これまでの取組等を伺い、都市型の地域活性化の参考とする。</p>
	<p>5 濱田酒造株式会社 (いちき串木野市)</p> <p>○焼酎の需要拡大に向けた取組</p>	<p>鹿児島県内における大手焼酎メーカー(H29年売上高:全国6位)。鹿児島県では官民連携による焼酎の販路拡大に取り組んでおり、鹿児島県酒造組合会長でもある浜田社長は県焼酎輸出拡大等プロジェクト小委員会の委員として参加している。また、焼酎の製造工程を展示する施設の開設や、英語の資料を作成するなど外国人旅行者に向けた取組も行っている。</p> <p>同社の販路拡大に向けた取組について伺い、兵庫県における日本酒の輸出拡大等の参考とする。</p>

調査者名簿

(兵庫県議会 ひょうご県民連合議員団)

団 長	いし い	ひで たけ
	石 井	秀 武
幹 事 長	うえ の	ひで かず
	上 野	英 一
政務調査会長	たけ うち	ひで あき
	竹 内	英 明
副 幹 事 長	むかい やま	し ほ
	迎 山	志 保
政務調査副会長	むこ やま	こう いち
	向 山	好 一
	いし い	けんいちろう
	石 井	健一郎
	くり やま	まさ し
	栗 山	雅 史
	まえ だ	ともき
	前 田	

(以上8名)

管外調査(鹿児島)

○鹿児島和牛・かごしま黒豚の輸出促進について

・鹿児島県では県産農畜産物の輸出額が年々増加傾向にあり、全体の 9 割りを牛肉が占めている。そういった中、全国で一番の生産量を誇る黒毛和牛やかごしま黒豚の輸出拡大に現在努めており、生産・加工・流通段階の基盤強化や輸出相手国・地域の食費化安全基準等への対応や県産品の認知度向上に向けて、輸出商談会やフェア、食品見本市、ロゴマークの登録等の取り組みを進める他、今後、販売指定制度を活用した店舗を増やし、販路の拡大を目指すとしている。輸出拡大に係る課題は本県もほぼ同様であるとともに基本的には本県としても取り組みを進めていると認識している。

・鹿児島県における子牛輸出が増加するためには肥育数を増やさなければならないがその対策についてや、牛価格の推移、輸出割合や価格、担い手育成のための県下の畜産高校の数、大規模肥育の状況、県下の口蹄疫の影響、輸出障壁問題や和牛のコピー対策等について質問が挙がった。

・鹿児島県では和牛の輸出量は全体の数パーセントであり今後の輸出の伸びが期待される大規模肥育が少なく、小規模肥育が多いとはいえ、100 頭規模が約 5 割程であり、本県と比較すると生産量を増やしやすき環境にある。国内・海外での価格に変化はないとのことであり、海外で人気のあるさしの多い 5 等級は輸出へ、4 等級以下については逆に国内において好まれるということで国内消費にまわされているようである。また、販路拡大に向けてロースやヒレ等の高級部位だけではなく、ウデやモモ等の多様な部位や一頭売、中流層への販売にも今後注力していくとのことであった。本県の神戸ビーフはやはりさしの多い 5 等級で価格が高いイメージがありそれがブランドとなっているので同様の取り組みは難しいのかもしれない。一方、最近の健康志向で国内においても赤身の方が良いという消費者も増えているところから今後の神戸ビーフの販売戦略も考える必要があるのではないかと考える。鹿児島県から香港まで輸送に 7 日間で到着する。本県の神戸ビーフについては鹿児島県会社を通じて輸出をこれまで行ってきた。今後、姫路の会社から海外へ直送で輸出することとなるので輸送期間の短縮が期待される。

○鹿児島県スマート農業の推進方策について

・鹿児島県の農業は温暖な気候、本県より広い畑、水田を活かし畜産、園芸を中心とした農業経営が展開されており、特に農業産出額については全国 2 位であり地域経済を支える基幹産業である。

その一方で、全国の傾向と変わらず農業従事者の減少や高齢化等を背景に、特に鹿児島県では担い手の規模拡大に伴う圃場管理や栽培、飼養管理等の労働力不足が顕在化しており省力化に向けた機械開発・導入が求められている。

そういった中、熟練技術知識のデータ化をはじめ AI、IoT 等の先端技術等の先端技術を

活用する中で省力、高品質生産を実現するスマート農業が期待されるが、多くの農業者に理解されるに至っていない。このため、鹿児島県ではスマート農業の将来像を明確にすることにより、農業者の理解を深めるべくスマート農業推進方策を策定した。

- ・スマート農業に対する理解が深まっていないというアンケート結果から改めて費用対効果に対する考え方や鹿児島県のスマート農業の取り組み時期や取り組み状況、中山間地域での持続的な取り組みについては具体的な取り組み内容等についての質問が挙げられた。

- ・鹿児島県は本県より第一次産業従事者や農業産出額が数倍多く、さつまいもや豚、お茶、肉用牛等特色があり全国でも認知されている品目も多いが、抱える課題は本県同様である。AI や Aot を利用した農業については当然本県でも推進していく必要があるが、鹿児島県が第一に挙げている広大な畑、水田を活用した大規模農家の推進については本県と条件が些か異なるものの、省力化や施設園芸、農業技術継承、また中山間地等の条件不利地における持続的農業の実現については本県においても見習う必要がある。鹿児島県においてスマート農業の理解が進んでいない現状が報告されており、何をすればよいかわからない、費用対効果、高コスト等の理由が挙げられている。高齢化している農業従事者にご理解頂く、また、新規農業従事者の利用を期待するのであれば行政としてどのように AI、IoT の利点を説明するかが課題である。ハードとしての仕組みづくりの充実も大切だが、何よりもそういった技術の利点をどのように理解を含め、利用しやすい環境等ソフト対策の充実が求められると感じた。

メディポリス国際陽子線医療センター調査報告書

訪日外国人営業:

料金を外国人と日本人で分離して設定。

日本人314万円

外国人600万円

→この料金設定でも世界水準では安い。同種の施設では、韓国800万円、アメリカ1000万円と高額。

また、海外営業を5人設置して、病院連携やセミナー開催を実施。

営業環境:

日本各地で新規施設が設置され、営業環境は激化。

また、保険適用の金額が安く採算性は悪化し、新規施設の停止も相次ぐ。

しかし、ダビンチと比較すると低しんしゅうで尿漏れや再発リスクが少ないことを訴求している。

また、診断から治療まで2週間以内で可能なこともアピールポイント。

収益動向:

営業時間の長期化で回転率を上げている。

アメリカでは実質24時間営業の場所もある。

所管:

兵庫県立粒子線医療センターにはかねてから、

・訪日外国人向けの営業強化と料金設定

・稼働時間の延長による回転率強化

を委員会等で提言してきたが、同趣旨を民間運営の同センターでは実行している。早急に対策を講じなければ、患者数の低下による大幅な採算悪化が予想される。

調査報告書

栗山雅史

■そらのまち保育園

<調査して感じたこと・学んだこと>

・企業主導型保育事業は、全国的には定員割れや事業所の閉鎖などを招いているケースがあるが、同園は鹿児島市内の中心地「天文館」にある中、土日営業の店舗勤務者などの一定の保育ニーズを充足する保育園として「選ばれている」との認識を持った。

・「天文館」にある保育園ならではの、子どもたちが登園しない曜日が「平日」であることが多く、例えば商店街内の店舗が定休に設定されている平日などは驚くほど子供たちが少ないらしい。一方で、土曜日・日曜日は子どもたちが多く登園しているとのこと。また、認可外であるからこそできる「7時～20時」の「13時間保育」を実施している。

・街中にある保育園なので園庭がなく、また公園や自然を感じることがないのではないかと？と思ったが、意外にも近くに大きな公園や山があり、安心した。

・子どもたちを毎日登園、降園させることで、商店街内に定期的・定量的に人の往来が発生し、賑わいに繋がっていると同時に、保護者たちの消費にも繋がっているとのこと。

・同園は「食べることを大切にしている。同園は、元は書店を営んでいた3階建ての商業ビルにあるが、1階に惣菜店を併設し、子どもたちには自ら調理をさせ、自分たちが食べているものがどのように作られているのかを体感させている。大変重要な体験であり、貴重な学びをさせていると感じた。

・園の収入の内訳であるが、7～8割が「子ども子育て拠出金」という税源であった。もう少しこの割合が低いのかと思ったが、かなり多いので驚いたとともに、認可外とはいえ、公的影響の強い園であることを感じた。

●株式会社 丸屋本社 マルヤガーデンズ(鹿児島市呉服町 6-5)

【調査日時】5月21日(火)13時~14時10分

【概要】

三越・鹿児島店跡地の再生施設であり、「ユナイテッドストア」を標榜した地域交流の場としての役割を果たす目的も持った商業施設。地元市民や民間団体、NPOが活動できる場所として各フロアに「ガーデン」と呼ばれるコミュニティギャラリーを設置し、買い物集会所のような百貨店を目指している。

【視察目的】

県内では姫路市の老舗百貨店が閉店するなど、近年地方都市における百貨店業態はダウントレンド。百貨店をはじめ大型商業施設に頼る中心市街地活性化にも限界が見えている今、真の地域活性化に資する商業施設の有効なあり方、市街地の活性化策について調査する。

【説明】マルヤガーデンズ店長 ████████ 氏より

天文館エリアの商圈人口は約70万人で長らく鹿児島県の中心部として繁栄してきたが、新幹線鹿児島中央駅開設とともに人の流れが変化し、三越の撤退がその流れを加速化、街の空洞化は待ったなしの状況になった。このエリアのシンボルであった百貨店のあり方としてテナントと市民と一緒に取り組む地域活性を核に、地元のオアシス的存在としてエリアの賑わい創出に寄与している。三越時代と比べ、外商などの業態もなくなったので、客単価は3分の1になったが、客数は休日で1.5倍、平日で1.3倍になった。

【所感】

百貨店としてはこじんまりしているが、壁面緑化されたナチュラルな外観が好印象。中に入るとテナントとは別に各階にガーデンと呼ばれるフリーゾーンがあり、有料で貸し出している。物販ももちろん可。「ソラニワ」と呼ばれる屋上庭園で説明を伺ったが、桜島を一望できる景観は素晴らしく、ビアガーデンや結婚式の二次会利用など大いに活用されているのも納得。また、その庭園の一角において地域と協働で養蜂を通して自然環境を学ぶ「天文館みつばちプロジェクト」を立ち上げたり、定期的な店舗の入れ替え、大規模なリニューアルを行うなど不断のチャレンジを続けているという印象。

開業時にクリエイティブディレクターとしてナガオカケンメイ氏が関わったことでハイセンスなショップの誘致に成功し、ここが核となって新たな客層を呼び込むことに成功している。百貨店時代より客単価は大幅に下がったということだが、フリーゾーンの貸し出しなどを含め、以前にはリーチしていなかった層による賑わい創出を実現しており、かなり健闘しているといえる。天文館エリアにとっては、三越閉店後にこのような形で商業施設が復活したことのインパクトは大きかったように思う。

地方都市の中心市街地では商業施設に行政部門が入居したり、賑わいづくりに苦心しているところも少なくないが、やはりエリアのシンボルたる施設が果たす役割は大きいと感じた。

鹿児島県の本格焼酎業界と濱田酒造の今後の取り組み

とき：2019年5月22日（火）14:00~15:30

場所：濱田酒造(株)本社

ヒアリング対象者：濱田酒造(株)マーケティング部次長 ■■■■■様

<鹿児島焼酎業界の特徴>

- ・鹿児島は本格焼酎発祥の地であり、500年の歴史と文化を培ってきた。
- ・焼酎は、原料・産地・蒸留方法・貯蔵方法によって味が異なり、他の酒類に比べ多様性に富んでいる。
- ・現在、鹿児島県には蒸留酒の製造蔵が114あり、清酒で有名な兵庫県の74を大きく上回っている（日本一）。
- ・焼酎業界は、鹿児島県の税収、雇用、付加価値を支える重要な産業である。

<現状の課題>

- ・過去2度の焼酎ブームがあり右肩上がりの販売を続けてきたが、少子高齢化・人口減少、他酒類との競合激化でピーク310万石から235万石へと減少している。
- ・しかし、濱田酒造は伝統を守りながらも新品種の開発・販売に力を入れており、順調に販売を伸ばしている。

<今後の展望>

- ・日本酒の海外輸出は伸びているのに、焼酎は国内消費が4,250億円なのに対し国外輸出は15億円にとどまり伸びていない。
- ・国内需要には限界がある一方で、海外市場は今後とも拡大傾向で特にアジア圏中心の新興国への海外展開が必要と考えている。

<所見>

海外展開をするうえで商品バリエーションを考慮する点は、酒造業が多く存在している兵庫県にも参考になるのではないか。